
お風呂を考えた最初の人

らむね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お風呂を考えた最初の人

【Nコード】

N0948I

【作者名】

らむね

【あらすじ】

だれもが知っているものだけど、気にしていない、こんなことやあんなことを考えてみました。

今でこそ

あつて当たり前な

お風呂ですが、

お風呂はいつ誰が

考えたんですかね？

きつとこんな感じ

だったと思います。

「人間が火を使いはじめた頃」

原始人 A (以下 A)

「ああ今日もめっちゃしんどかったわあ。マンモス暴れすぎやろホンマにい。村長も人使い荒くてかなんわあ。オレなんてこないだ狩りしにいってまた今日もやんか。」

原始人 B (以下 B)

「せやけど今日はおつきいマンモスとれたからよかったやんか！これでしたら生活安泰やな。さッ川で体流してこようや。」

A

「オレ今日体調悪いし、川の水冷たいからええわあ。体洗いたいけど、冷たいの嫌いやねん。」

B

「そうかあ。お前大丈夫か？無理しんときや。」

優しいBは考えました。

(なんとかAに冷たくない方法で体ながさせてあげたいなあ。)

その時たまたまBの

目にマンモスを焼いている

原始人Cがうつった。

(そうか！これや！これやったんやあ！マンモス 焼く ホツカホカ
カッ川の冷たい水 焼く ホツカホカ)

さっそくBは火を

片手に川に行き

持ってた火を川へジュッ

そう。Bは馬鹿だった。

そして学習した。

B（水が多すぎたら火が負けるのか…）

次にBは倒れた

大木に溜まった雨水

ならいけると思い、

大木に火をつけた。

当たり一面やけのはら

になった。

Bは見て見ぬ不利

を覚えた。

そして次に

石の湾曲に溜まった

雨水に狙いをつけ、

石を熱した。

石の熱で雨水は

温度をあげ湯気がでた。

B（やった！成功や。これでAは体を流せる。）

さっそくBはAをつれ、

Aにお湯をかけた。

熱気ムンムンのお湯を

かけられたAは

かなりいいリアクション

をとり、熱湯芸が

うまれた。

お風呂は

こんな感じで

できたんです。たぶん。

えんど

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0948i/>

お風呂を考えた最初の人

2010年12月9日05時57分発行